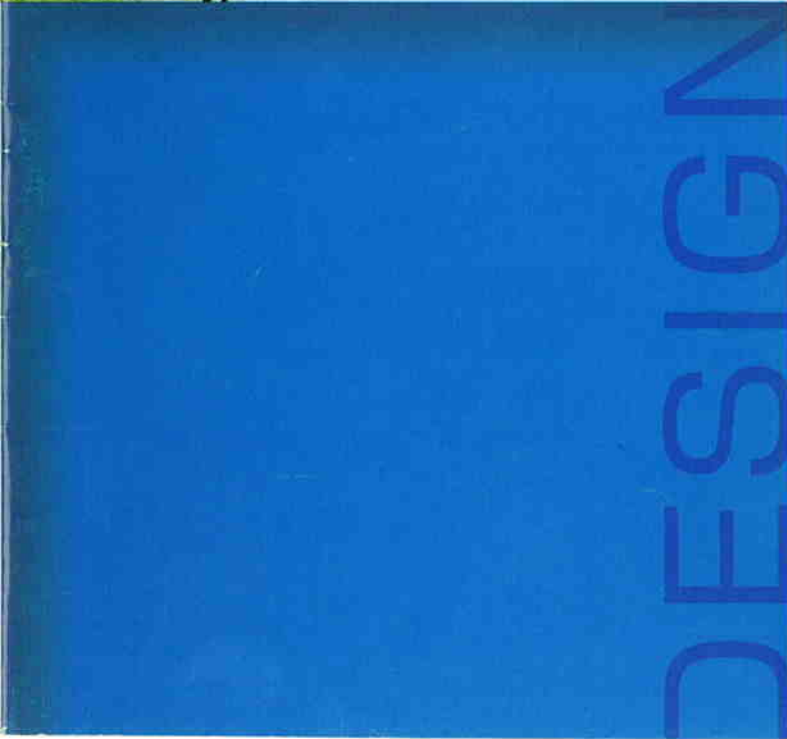




まちなみ を 考える

都市景観のデザイン指針





はじめに

市街地の景観は、それぞれの地域の自然や歴史を背景に、主に単体の建築物や建築群（「まちなみ」）と、道路、公園など（「公共施設」）が組み合わさって形成されています。市域の景観向上のためには、市民、事業者及び行政が相互に連携、協力して、これらの施設などのデザインの水準を高め、また他の施設や地域との関係に配慮して整備することにより、親しみや愛着もてる景観を形成するよう努める必要があります。

このデザイン指針は、こうした都市景観の形成を進めるにあたって、場所の特性を景観形成に生かすための考え方、公共的空間や建築敷地・建築物などをデザインする際の留意点などを取りまとめたものです。

景観デザインの基本的考え方

1. まち全体を考慮し「つながり」のデザインを考える

建物、道路、公園、看板など、まちの景観はいろいろなものが組み合わさってできています。したがって、よりよい景観を育んでいくためには、ひとつひとつの要素がよくデザインされているだけでなく、お互いまわりにある他の空間・要素のことを考慮しながら整合をはかってデザインすることが大切です。よりよい景観づくりのために、まち全体をトータルに考え、それぞれの要素の「つながり」を考えながらデザインを進めていく必要があります。

2. 景観の主役を見きわめ「めりはり」のデザインを行う

まちの景観のなかで何が引き立つべきかわかれば、それ以外の要素はそれを引き立たせるために「控え目なデザイン」を施さなければなりません。景観面でいいものをつくろうとすると、いきおい、デザインを「つくること」ばかりを考えがちですが、「つくらないデザイン」「デザインをしすぎない」という発想も大切です。何も手をつけないほうがその場所にふさわしい場合もあるはずです。お互いが主張しあっているさくなっている景観も少なくありません。まちのなかで、何を主張し、何を控えるべきかをよく吟味し、全体のバランスを考えてデザインを行うことが大切です。

3. 人にやさしいデザインを行う

高齢社会を迎え、高齢者や障害者にやさしいまちづくりが進められるようになりました。このためすべての人に使いやすい施設デザイン、だれもが快適に使える空間デザインを施すことが大切です。

4. メンテナンスに配慮したデザインと計画的な維持管理を行う

風格のある都市景観を形成していくには、各種の景観整備事業において息の長い取り組みが必要です。質の高い景観整備のためには、入念な調査・計画・設計のもとに、質の高い事業を実施しなければなりません。さらに、この点を踏まえた上で、完成後の施設の維持管理に十分配慮しておくことが必要です。景観整備に力を入れようとする、いいデザインをつくることだけを考えがちですが、後のメンテナンスが十分でないために、かえって景観を阻害しているケースがありがちです。維持管理しやすい素材とデザインを工夫するとともに、予算や組織体制を含め、計画的な維持管理が行えるようなシステムをつくることが重要です。

5. みんなで景観をはぐくんでいく

景観は時間をかけて、みんなではぐくんでいくものです。最初から造りこんでしまうのではなく、あとからも手を入れることができるようなゆとりを持たせたデザインが有効です。お互いが譲り合い、補い合うような余地を残すこと、使い手がいろいろと工夫できるゆとりを残しておくことができれば、人々に使い込まれ、時間とともに成熟していく景観が生まれることでしょう。ひとりですべてをデザインしてしまうのではなく、みんなが力を合わせながら、はぐくんでいくデザインを行っていくことが必要です。

場所性の景観デザイン

1

「歴史」の景観デザイン

まちの景観は歴史の積み重ねによってできあがったものです。まちの成り立ちを考え、その流れのう
えに将来の計画を考えるためにも、まちの歴史的資源を大切にしなければなりません。路地や祠、地蔵
など、身近なところにもそのまちの歴史を感じさせる場所や建物があるものです。こうしたものを保全し、
活用する場所の特性を生かした景観デザインを心がけましょう。

まちの歴史を刻む場所や建物を発見し、
整備・活用をはかる



サイン、ストリートファニチャー、路面舗装など、公共施
設等のデザインに歴史的な雰囲気を取り入れる



2

「にぎわい」の景観デザイン

落ち着きやゆとりのあるまちづくりが求められる一方で、「にぎわい」の空間は個性ある都市景観をつ
くうえで重要な役割をもっています。たとえば、身近な商店街では人々が楽しく買物できるよう、いき
いきとした空間が生まれる景観デザインを行うことが大切です。また、とくに地域の核となる公共的建築
物やホテル、業務施設などの大規模施設の整備にあたっては、周辺地域とのつながりに十分配慮し、にぎ
わいの景観デザインを工夫しましょう。

適切な場所に、休憩スペースとなる
ゆとりの空間を設ける



にぎわいを分断しないよう、建物
低層部の用途やデザインに配慮する



建物のセットバックなどを行い、
建物の低層部と歩道が一体となった
歩行者空間を整備する

3 「みはらし」の景観デザイン

高密度な市街地では、「みはらし」がきく場所に来るとほっとするものですが、まちが一望できることは、まちを総合的に考えていく景観づくりにとっても大切なことです。まちを見渡し、見通せる場所に立ち、まちの全体像を眺める、そしていい景観になっているかを点検することが重要です。高低差が少ない大阪市では、上町台地は「みはらし」の場所として貴重な空間です。かつてのように見晴らせる場所は少なくなりましたが、それでもまだ「みはらし」のいい場所が残っています。現代では、高層ビルという新しい眺望点もできてきました。また、川や海辺も大阪の特色ある眺望地点であり、今後も保全・整備をはかっていく必要があります。

主要な眺望点を定め、台地の
上からの眺望を保全する



高層ビルの上階を公共開放し、
眺望スペースとして整備する



眺望点を整備する

